

# 保健体育科学習指導案

令和7年11月11日 第3校時

中学校 2年 組 名

## 1 単元名 傷害の防止（応急手当の意義と基本）

### 2 単元について

#### （1）教材観

本単元では、傷害の発生には自然災害や交通事故などの様々な要因があり、それらに対する適切な対策によって傷害の多くは防止できること、迅速かつ適切な応急手当は傷害の悪化を防止できることについて理解を深める。また、包帯法やAED（自動体外式除細動器）の使用を含む心肺蘇生法などの応急手当の知識及び技能を身に付けること、さらに、傷害における危険を予測し、その回避の方法を考える単元である。

#### （2）生徒観

本学級の生徒は、体育の授業や部活動等の運動時など日常の学校生活の中でけがをして保健室を利用することがある。けがの程度は、擦過傷や打撲、突き指や捻挫など軽傷のものがほとんどである。保健室に来室した生徒は、けがの状況を把握し、詳細に説明できるものの、けがの状態に応じた応急手当を自分たちで判断し実施できる生徒は少ないように感じる。また、迅速かつ適切な手当がなぜ重要なのかという応急手当の意義を理解できていない生徒もいる。

#### （3）指導観

小学校の保健学習では、交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止、すり傷や鼻出血などの簡単な手当などを学習している。また、本校では救急救命士によるAEDと心肺蘇生法の講習会を毎年実施している。そこで本時は、応急手当の意義や基本を理解させるとともに、具体的かつ身近な場面設定やロールプレイを取り入れた包帯法や直接圧迫法の実習を行うことで、単なる知識の伝達にとどまらず、生徒一人ひとりが「もし自分がその場にいたらどうするか」を主体的に考えるよう促す。さらに、仲間と情報を共有したり、応急手当の意義について積極的に意見を出し合ったりする中で、傷害の悪化を防止する方法を見いだせるよう指導する。

### 3 単元の目標

- （1） 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因、交通事故などによる傷害の防止、自然災害による傷害の防止、応急手当の意義と実際について、理解することができるようにするとともに、心肺蘇生法などの技能を身に付けることができるようにする。
- （2） 傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し、自他の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。
- （3） 傷害の防止について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因、環境要因及びそれらの相互の関わりによって発生することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>②交通事故などによる傷害を防止するためには、人的要因や環境要因に関わる危険を予測し、それぞれの要因に対して適切な対策を行うことが必要であり、人的要因に対しては、安全に行動すること、環境要因に対しては、交通環境などの整備、改善をすることがあることや、交通事故を防止するためには自転車や自動車の特性を知り、交通法規を守り、周囲の状況に応じ、安全に行動することが必要であることについて理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>③自然災害による傷害は、例えば、地震が発生した場合に家屋の倒壊などによる棄権が原因となって生じることや、地震に伴って発生する津波などの二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の防止には、自他の安全を確保するために冷静かつ迅速に行動する必要があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>④傷害が発生した際に、迅速かつ適切な手当は傷害の悪化を防止できることや、応急手当には止血や患部の保護や固定があり、その方法について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、実習を通して包帯法や止血法としての直接圧迫法ができる。</p> <p>⑤心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当には気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法があり、その方法について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、実習を通して胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法ができる。</p>	<p>①傷害の防止について、それらに関わる事柄や情報などを整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している。</p> <p>②自然災害などによる傷害の防止について、習得した知識を自他の生活に適用したり、傷害の状態に合わせて悪化を防止する方法を見いだしたりして、傷害を引き起こす様々な危険を予測し、回避する方法を選択している。</p> <p>③傷害の防止について、自他の危険の予測や回避の方法と、それを選択した理由などを他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。</p>	<p>①傷害の防止について、課題解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。</p>

5 指導と評価の計画（7時間）

時間	主な学習活動	知	思	態	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 傷害の防止について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組み、交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などの関わりによって発生することについて理解する。</li> </ul>	①			観察 ワークシート
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通事故などによる傷害は、安全な行動、環境の改善によって防止できることについて理解する。</li> </ul>	②			観察 ワークシート
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 傷害の防止について、それらに関わる事柄や情報などを整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見する。</li> </ul>		①		観察 ワークシート
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然災害などによる傷害の防止について、習得した知識を自他の生活に適用したり、傷害の状態に合わせて悪化を防止する方法を見いだしたりして、傷害を引き起こす様々な危険を予測し、回避する方法を選択する。</li> <li>・ 自然災害発生による傷害には、自然災害発生による傷害と二次被害による傷害があることについて理解する。</li> <li>・ 自然災害への備えと傷害の防止について理解する。</li> </ul>	③	②		観察 ワークシート
5 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 応急手当による傷害の悪化防止について理解することができる。</li> <li>・ 包帯法や止血法としての直接圧迫法ができる。</li> </ul>	④			観察 ワークシート
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心肺蘇生法について理解することができる。</li> <li>・ 胸骨圧迫や AED 使用などの心肺蘇生法ができる。</li> </ul>	⑤			観察 ワークシート
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 傷害の防止について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組み、自他の危険の予測や回避の方法と、それを選択した理由などを他者と話し合ったり、ワークシートに記述したりして、筋道を立てて伝え合う。</li> </ul>		③	①	観察 ワークシート

6 本時（5 / 7時）

(1) 目標 応急手当の意義と基本的な方法について理解し、実習を通して応急手当ができるようになる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価 方法
5	1 本時のめあてを確認する。	○ 本時の学習内容（めあて）を提示する。		
応急手当の意義や基本を学んで、必要な応急手当ができるようになるろう。				
5	2 応急手当の意義と基本を学習する。	○ 教科書や資料等を活用し、応急手当の意義と基本を学ばせる。		
10	3 包帯法や止血法としての直接圧迫法、固定法について学習する。	○ 教科書や資料等を活用し、包帯法や止血法としての直接圧迫法、固定法について学ばせる。		
10	4 けがをした人と遭遇した場合の行動についてシミュレーションし、動画を撮影する。	○ 各グループに事例を配付し、どのような応急手当をすれば良いか考えさせ、シミュレーションしている様子をタブレットで動画撮影するよう指示する。	○ 応急手当の意義と基本的な方法について言ったり書いたりしている。	ワークシート 観察
15	5 動画を共有しながら、自分たちのグループの応急手当について説明する。	○ 各グループの撮影動画を共有し、どうしてその応急手当をしたのか発表させる。また、処置してもらった生徒にもどのような気持ちだったか発表させる。		
5	6 本時のまとめをする。	○ 本時のまとめをし、学習を振り返らせる。	○ 応急手当の意義と基本的な方法について理解している。	ワークシート

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 応急手当の意義と基本的な方法について、根拠をもとに言ったり書いたりしている。</li> <li>・ 手当をする相手に、説明をしながら包帯法や止血法としての直接圧迫法ができる。</li> </ul>
-------------------	---

「おおむね満足できる」状況を実現させるための具体的な指導	・タブレットを使用し、包帯法や圧迫止血について動画等で確認するように個別で説明する。
------------------------------	--

参考：徳島県立総合教育センターHP

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 体育  
(文部科学省 国立教育政策研究所 令和2年3月)